保健センター健康通信

秋以降も要注意の新型インフルエンザ

本学でのこれまでの対策

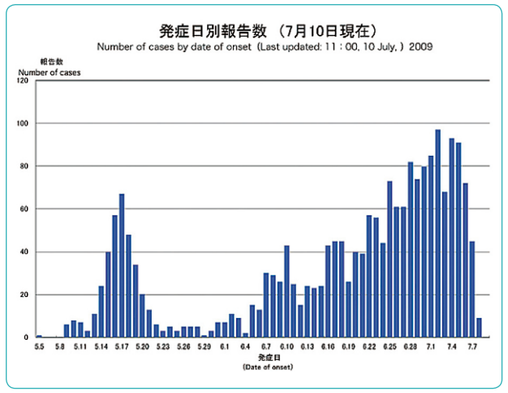
強毒性鳥インフルエンザ（A/H5N1）（以下、新型H5とします）がヒト型に変異し新型インフルエンザとして流行することを懸念して、立命館大学では感染症対策委員会を中心に昨年度からその対策を検討して参りました。これを基に、今回の豚インフルエンザから発生した新型インフルエンザ（A/H1N1）（以下、新型H1とします）が4月24日（金）にメキシコ・米国で流行していることが報道されてからは、総長を筆頭とする緊急対策本部を立ち上げて迅速な対策に当たってきました。

神戸において国内初の感染が5月16日（土）に発表されたわずか4日後の20日（水）に、本学の学生が滋賀県初の感染者として発表されました。大学生の感染者としても国内第1号でした。滋賀県が県内すべての学校を休校とし、本学へもその要請があったため、社会的影響を考慮してBKCでは1週間の休校を判断するとともに、即日、管轄保健所と協力して濃厚接触者を特定し、全員から健康状態などの聞き取り調査を行ったうえで、健康観察・自宅待機を要請しました。2次感染者は出ず、大きな流行に発展しなかったことは幸いです。京都市では、市内で初の感染者（小学生）が21日（木）夜に発表され、深夜に大学へ休校要請があり、翌22日（金）より1週間の休校と致しました。25日（月）には、1人の学生より感染したとの報告がありました。当該学生は21日（木）より発症し、講義に出席して600人以上の接触者があったことが判明しましたが、すでに休校していたことが幸いし、大きな混乱や二次感染の発症もなく経過いたしました。この間、父母の皆様にはご心配をお掛けいたしましたが、冷静にご対応・ご理解を賜りましたことを感謝いたします。

現在の流行状況とこれからの予測

新型H1については、報道の焦点が経済・観光への影響などにシフトし、6月5日には京都府からは「安心しておこしやす」宣言が発表されるなど、世間では感染そのものはもう終わったかの様に受け取られています。しかしながら、まだ決して終わったわけではなく、世界ではまだこの流行は拡大し続けており、6月12日（日本時間）には世界保健機関（WHO）は「感染状況について異なる複数の地域（大陸）の国において地域（コミュニティ）での持続的な感染が認められる」として、2009年改訂ガイドラインに基づくWHOフェーズ分類を6とし、「世界的なまん延状況にある（パンデミック）」と宣言しています。特に、冬季に入った南半球（オーストラリアやチリ）での感染が急速に拡大しています。北半球でも、イギリスでは再び5月中旬から学校を中心に感染者数が再上昇しています。また、最初はメキシコだけに重症・死亡例が多くみられましたが、時間の経過と共にアメリカ・カナダ・アルゼンチンなどでも死亡者がみられ始め、現在、致死率は世界全体で0.4%と推計されます。新型H5に比べると弱毒性ですが、誰もが免疫を持たないため感染力が強く、侮ることはできません。

●図1：発症日別報告数（7月10日現在）



日本においても、いったん終息したかに見えた感染者数は6月に入ってから再び増加に転じ、気温が30℃を超えても感染が継続しています（図1）。海外渡航歴のある者が端緒となる散発事例や、学校における集団発生事例、さらにこれ以外にも散発事例が全国の都道府県で報告されているのが実情です。7月中旬以降、本学でも散発例が続いています。このようなことから、「秋冬に向けて、いつ全国的かつ大規模な患者の増加を見てもおかしくない状況であると考えられる」と厚生労働省は発表し、引き続き注意・対策が必要であると指摘されています。大学では、いかに集団感染を早期に発見して食い止めるかが肝要です。

発熱＝インフルエンザの疑い：流行期の即席診断

新型H1の症状は、基本的には季節性インフルエンザと変わりません。遺伝子の検査（PCR）をしなければ区別ができません。しかしながら、これから蔓延期に入ると全例にPCRを行うことは合理的でないことから、①重症化する恐れのある基礎疾患を有している者、②学校などで感染者が複数存在する場合などを例外として、原則はPCRを行わないこととなりました。新型H1が流行しているか否かを知るすべは限定されます。

そこで、立命館大学では①37.5℃以上の発熱がある人は登校しないで、②医療機関を受診すること、③その旨を学部事務室などに連絡すること、を学生のみなさんにお願いしています。インフルエンザ様症状で欠席している学生が多数存在すれば、その時点で新型H1の流行を疑い、疫学調査を保健所にお願いすることになります。

保健センターからのお願い『体温計を持たせてください』

お子様には、体温計をぜひ持たせてください。毎朝検温する習慣をつけてもらうのも良いでしょう。

体調不良時、特に体温が高い時には登校せずに医療機関を受診するようご指導ください。なお、保健センターは大学構内に存在します。学内に感染症を持ち込まないためには、外部の医療機関をご受診いただきますようご理解ください。

●インフルエンザの感染予防

① 体調管理：栄養・休養
② 衛生管理：手洗い、うがい
③ 感染防御：
　（ア）人ごみに出ない
　（イ）濃厚接触の危険時：マスク着用
　（ウ）手洗い、うがい
④ 感染拡大防止：
　（ア）咳エチケット
　（イ）自宅安静：発熱時には登校しない
　（ウ）医療機関受診
　（エ）学校へ報告・連絡

詳しくは、下記の保健センターのホームページをご覧ください。

※立命館保健センター
http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/hoken/medical-j.html
立命館大学ホームページ → 各センター等 → 保健センター